

第 41 号
2017年6月1日

○発行
鳥取市立川町5丁目417番地
鳥取子ども学園後援会
電話 (0857) 22-4206
<http://www.tottorikodmogakuen.or.jp/>
○振込口座
郵便振替 01490-9-9106
題字 尾崎悌之助

鳥取子ども学園 学園だより

- ① 子どものいない地域は消えていく
5月5日子どもの日の新聞各紙は、一斉に「子どもの人口36年連続減少14歳未満の数が1,571万人(鳥取県7万2,754人)最低更新」を伝えている。4月現在の鳥取県の人口は56万5,936人。総人口に占める子どもの数は全国12.4%で43年連続の低下(鳥取県は12.8%で全国13位)のこと。このままでは、日本人は今や「絶滅危惧種」である。
- ② 児相の虐待対応件数10.3万件、虐待死事件が5日に1人、不登校小中学生12.3万人・高校生7万人、ニート引きこもり推定70万人、配偶者等DV10.2万件、いじめ認知発生件数19.8万人。日本の子どもたちは今危機的状況に置かれている。川崎や寝屋川の中1少年殺害事件のような居場所のない浮遊する子どもたちの被害・加害事件も後を絶たない。
- ③ 子どもは歴史の未来・希望である
そのような中で、1989年11月国連で採択、1994年5月に日本が批准した子どもの権利条約に「子どもの「権利」「最善の利益」「意見表明権」等が、昨年6月3日施行の改正児童福祉法に規定された意義は大きい。
- ④ 子どもの権利条約はキリストの愛に通ず
鳥取子ども学園は創立以来、「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし思いを尽くして」といって小さくされた子どもや保護者のために歩み続けてきた。また、「隣人を自分のように愛し」続けてきた。子どもの権利条約の精神は鳥取子ども学園の精神文化・キリストの愛の実践そのものである。
- ⑤ 改正社会福祉法が本格施行され、
私はこの機会に25年間勤めた鳥取子ども学園長を田中佳代子新園長に引き継ぎ、全養協会会長も舞鶴学園の桑原教修園長に引き継ぐこととした。今後、私は初心にかえり
- ⑥ 2007年5月から副会長として2期4年。2013年5月から会長として2期4年、足掛け10年、日本の社会的養護改革に関わることとなった。ご支援賜った全国の方々、法人の役員、地元行政の方々、何より子ども達、非力な私を支えていただき心より感謝申し上げます。
- ⑦ 2010年末、タイガーマスク現象が報道され、当時の小宮山洋子厚生労働大臣と高橋俊之家庭福祉課長のコンビの下、生活単位の小規模化推進や6対1の職員配置基準を5.5対1に引き上げるなどの改革を急ピッチで進め、「社会的養護の課題と将来像(課題と将来像)」の実現に向けた大きなつねりを作り出した。
- ⑧ 「課題と将来像」を絵にかいた餅にしな
いたために、家庭的養護推進計画の初年度である2015年度には4対1等の職員配置及び小規模ケア・個別ケアの改善にこぎつけたいと、ありとあらゆる動きを組織的に取り組むこととした。2013年末には日本テレビの「明日ママがいない」への抗議行動を展開。社会的養護がいかに世間に認知されていないか思い知らされたと同時に、社会的養護への関心を高める一定の役割を果たすこととなった。
- ⑨ ともあれ、塩崎恭久衆議院議員(現厚生労働大臣)を会長とし、福田峰之衆議院議

子育て王国鳥取県に 日本型社会的養護のモデルを作ろう

「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、
あなたの神である主を愛しなさい、
また、隣人を自分のように愛しなさい」

ルカによる福音書10章27節

社会福祉法人鳥取子ども学園 常勤理事 藤野興一

員を事務局長とする「児童の養護と未
来を考える議員連盟」への働きかけ等
を通じて「課題と将来像」の中核部分
が実現されることとなった。更に、職
員の待遇改善、大学等への進学、社会
的自立支援等の措置も一気に進み、子
どもの権利、最善の利益を確保する社
会的養護の歩みが、ようやくスタート
することになった。

⑩「日本型社会的養護」の構築を目指す

●「日本型社会的養護」とは、日本の社
会的養護が、西欧諸国のように施設を
廃止して里親へ移行するという方向で
はなく、日本独特の措置制度の下で、
4～6人の小規模ケア・個別ケアの拡
充強化を図りつつ、施設と里親が連携
し、施設のソーシャルワーク機能など
専門性を活かした日本独特の社会的養
護を目指すものとして、全養協として
提案した。

●施設養護に関しては、国連の勧告にあ
るように、大規模な施設は、可能な限
り家庭や少人数の家庭環境に近い「家
庭的養育」にし、あざかり育てるばか
りでなく、治療的養育や地域児童・家
庭福祉の拠点として、社会的養護体制
を再構築する必要性を訴えた。

●戦災孤児の時代と違い、今の日本の
要保護児童には親がいる。従って、日
本の社会的養護には、子どもと同時

に親・家庭への支援が不可欠である。
親・家庭への支援に関しては、里親よ
りも施設のほうがそのノウハウを蓄積
してきている。施設と里親が互いを補
いつつ連携・協力して、日本独特の社
会的養護の体制が必要な所以である。

●課題と将来像の新たな展開により、「一
般家庭」の範となる養育モデルを、社
会的養護関係者が作りあげていくこと
は可能となった。

子育てに困った親が自ら頼り、預け
たくなるような「優れた養育を実践す
る施設等」を創りあげない限り、日本
の養育危機は克服できない。通告され
る前に、困ったら自ら相談する気にな
るような体制を作る必要がある。

●「日本型社会的養護」構築に向けて、
現場＝実践の場における質の高いソー
シャルワーカーの育成と支える体制が
求められる。それは子どもに寄り添い
続ける実践の中からしか生まれない。
「日本型社会的養護」では、24時間
365日稼働する児童養護施設付設の
児童家庭支援センターや、乳児院にお
ける「乳幼児総合支援センター（仮
称）」等のソーシャルワーカー集団形
成を目指すものである。

⑪鳥取子ども学園の実践は、「日本型
社会的養護」の先行的モデルをなすも
のである。一層の「支援を賜りたい。

法人本部

常勤理事 藤野興一 記

改正社会福祉法による新
しい定款の下に平成29年度
を迎えた。

①平成29年3月14日開催された評議員
選任・解任委員会で選任された評議員

は次の方々です。奥野隆一、岩崎陽一、
中尾修治郎、齋藤春代、橋原正彦、東
邦子、赤山涉、石谷暢男、黒坂幸夫、
田丸敏高、久保利晋一、山根茂、小池
千博、榎泰俊、以上14名の方々にお願
いすることとなった。新定款の下での
理事は、尾崎淑子、藤野興一、尾崎英
二、清水雅彦、田中佳代子、西井啓二、
竹中成代、計7名、監事は磯田教子、
房安強、計2名である。6月1日に理
事会が開催され、評議員会への理事監
事の推薦等決定し、6月22日に定例評
議員会が開催され、理事7名と監事2
名が選任され、理事7名による互選で
理事長及び業務執行理事を決定するこ
ととなる。

②平成29年4月1日付で以下のとおり
幹部職員交代等を行った。児童養護施
設長に田中佳代子、乳児院院長に竹中
成代、保育所園長に中村秀子が就任。
藤野興一が児童養護施設長を長代文子
が保育所園長を、星見元史がサポステ
所長を退職し、藤野は常勤理事として

長代は里親支援員として引き続き関わ
ることとした。又、藤野謙一を希望館
兼務のまま児童養護施設の副園長、竹
森香理を乳児院副院長、下根朋美を保
育所副園長に任命した。西井啓二は引
き続き希望館館長、山下学は通所部門
副館長、吉田裕治は法人事務局次長兼
児院副院長、山根章明は事務局次長兼
児童養護施設副園長とした。

③事務所増築とグラウンド防球ネット
工事

イ、事務所増築工事の計画

・社会福祉法改正、児童福祉法改正、職
員配置増などにより、職員が大幅に増
え、緊急に事務室の増築が必要となっ
た。事務室の増築等に対しては対応す
る補助金も無く、積立金等の蓄えもな
いが、その必要性から、法人内で何と
か資金を工面し実施することとした。

・約2,600万円程度かかる予定で、
一般競争入札で実施することとした。

ロ、グラウンド防球ネットは子どもたち
から切望されている

・子どもたちは、サッカーや野球などを
元気にプレイしている。周りに新しい
建物が建ち方いっぱいボールを蹴った
り投げたり打ったりできないで、加減
してくれている。この度、本田技研労
働組合様から寄付金の申し出があった
のを機会に、いくつかの寄付金をつな
いで設置に踏み切ることとした。今後
ともご支援のほどお願い申し上げます。

児童養護施設

鳥取こども学園

園長就任のご挨拶

園長 田中 佳代子

4月より藤野前園長の後を引き継ぐことになりました田中です。さらに藤野謙一副園長を新たに迎えて平成29年度がスタートしました。

鳥取こども学園は、長きに渡り創立の精神であり理念でもある「愛」を絶やすことなく今につなげてきました。この歩みを今後繋ぐ大きな役目をいただいたと思っています。

「愛」とは一人ひとりを大切に、寄り添い続けること。鳥取こども学園という大きな家族のなかで、子どもも職員も生かされる事だろつと感じています。子どもの本質は変わっていませんが、時代の流れとともに社会が子どもを変えてしまい、多くの重荷を背負った子どもや保護者が鳥取こども学園に集まっています。生活支援を主流としていた支援だけでは対応しきれない現状もあり、職員は専門性の向上に努めながら頑張っています。職員は、子どもへの慈しみも深く、一人ひとりの子どもに対する熱い想いが私に伝わってきます。私自身も子ども達

が本来の自分を取り戻し、未来に向かって希望を抱いて成長してほしいと願っています。基本は日々の生活の一つ一つを大切にしながら子ども達の気持ちを共有し、子ども達が自らの生存価値を高めて歩めるような働きかけがどれだけ出来るかということではないかと思っています。微力ではありますが力まず、私なりに鳥取こども学園の職員や子ども達・保護者の方々と一緒に歩んでゆきたいと思っています。

11年の歴史を持つ鳥取こども学園が地域の一員として皆様から見守っていただけるのは、先駆者の努力と関係者・地域の皆さまのご理解とご協力の賜物です。今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻をよろしくお願い致します。

職員自己紹介

◆たんぼぼホーム



保育士

田中 千尋

たんぼぼホームで毎日楽しく過ごしています。田中千尋です。職員さんに優しく教えて頂いたり、子ども達に教えてもらったりしながら早く仕事を覚えて、頼られる職員になりたいです。よろしくお願致します。

◆ふじホーム



保育士

竹川 留加

ふじホーム、竹川留加です。まだまだ分からないことはばかりで、迷惑をかけることが多くあると思いますが、一生懸命頑張っています。よろしくお願致します。

◆さくらホーム



児童指導員

山根 未佳子

こんにちは、山根未佳子と申します。まだまだ分からないことだらけで、失敗の連続ですが、一生懸命働いております。不器用な性格のため、迷惑をかけてしまつこともあると思いますが、よろしくお願致します。



事務員

川口 美咲

このたび事務員として働かせていただきましたことになりました、川口美咲です。初めてのことばかりで、ご指導いただくことも多いですが、一日も早く学園の一員として活躍できるよう一杯頑張ります。よろしくお願致します。

乳児院

鳥取こども学園乳児部

新体制での一歩

院長 竹中 成代

平成29年4月、社会福祉法人鳥取こども学園の幹部交代に伴いまして、わたしが鳥取こども学園乳児部の院長を務めさせていただくことになりました。また、竹森香理が副院長（総括看護師兼務）に就任。家庭支援専門相談員に園田秀幸を、主任保育士に渡美由紀を配置。そして、フレッシュなメンバー4名が加わり、創設11年目の新たな一年を新体制で臨んでいます。

ここ近年、在籍する乳幼児の数が少なく、定員15名を満たすことがありません。少人数での生活は養育にゆとりが持て、乳幼児が大人との愛着を築くには絶好の環境です。(しかし、この状況が続くと暫定の問題が生じ困るのですが…)

平成27年度より、里親など家庭養育の推進がうたわれました。施設は家庭ではありませんが、より家庭に近い環境を整え、施設ならではの専門性を活かしながら、更なるチーム養育体制の強化を図りたいと思います。

また、地域の「ご家庭のお子さんをお預

かりするショートステイやトワイライトステイ(市町村の子育て支援事業)等の依頼件数は増加の傾向にあります。昨年度末に受け入れホームの改築工事を行い、今年度は職員配置も増やして生活環境を整えました。地域のニーズにお応えする、地域養育支援にも貢献していきたいと考えております。

大変未熟ではありますが職員が一丸となって、法人の理念でありますキリスト教の『愛』の精神に基づき「子どもの最善の利益」を追求し続けていきたいと思っております。

これまでと変わリませぬご理解と指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

職員自己紹介

◆かりんホーム



児童指導員

高橋 彩乃

4月からかりんホームでお世話になっております。乳児部での毎日は私にとって発見と勉強の連続です。子どもたちの笑顔に癒されながら、日々様々なことを教わっています。まだまだ分からないことだらけですが、毎日がとても充実しています。一日一日を大切にしながら一生懸命

命頑張りますのでよろしくお願ひします。

◆くるみホーム



保育士

福安 ひかる

4月より乳児部のくるみホームでお世話になっております。慣れない事はかりたくさんご指導いただきませんが、子ども一人ひとりの関わりを大切に、子ども達と生活していきたいと思っております。そして、職員として日々成長していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

◆どんぐりホーム



保育士

出口 洋貴

今年度よりどんぐりホームでお世話になっております。何かとわからないことも多いですが、乳児部のメンバーとして子どもたちと明るく元気よく生活していきたいと思ひます。日々精進して参りますので、ご指導よろしくお願ひします。



◆さくらんぼホーム



保育士

中村 瑠光

はじめまして。4月よりさくらんぼホームでお世話になっております。まだまだわからないことも多く、ご迷惑をお掛けすることが多々あると思いますが、一日でも早くみなさんの一員になれるよう精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願ひします。毎日笑顔忘れず子どもたちの生活に寄り添っていききたいと思ひます。

児童心理治療施設

鳥取子ども学園希望館

小さな生活、大きな家庭

館長 西井 啓二

希望館と同じ児童心理治療施設は、全国に45施設あり、1,227人(定員1,587人)の子ども達が生活しています(平成28年10月)。私たちの希望館は、全体の中でも特徴の有る施設だと思ひています。大きな特徴は、ホームを6人の子ども達にした小さな生活にして、5ホームで全体の定員が30人となっ

ていることです(小規模グループケアといひます)。同じようなスタイルで生活をしている児童心理治療施設もありません(45施設中15施設)子ども達全員に小さな生活を提供しているのは少数派です(45施設中5施設)。しばらく前に厚生労働省の方が視察に来られ、小学生に「このホームで何人生活しているの?」と質問をされました。その子は指を折って数え、「8人!」と答えました。ホームの子ども達は5人なのに8人というのは職員も数えていたのです。「ここでは子ども職員も一緒に生活しているのだ」と誇らしい気持ちになりました。ホームは小さな生活、でも8人ですからホームは大きな家族なのだと思います。家族は、ホームだけではありません。希望館や法人内の子ども達も職員もみんながいつまでも家族なのです。

よく家庭的雰囲気とか家庭的養育と表現している施設がありますが、バーベキュー風味のポテトチップスはやはりポテトチップスでバーベキューではありません。希望館が家庭をモデルにして取り組んでも、いつまでたっても家庭には届きません。施設的であっても、なるべく小さな生活を準備して、大きな家族として生活したいと願ひしています。児童養護施設は、全国的に小規模化に向かうという官民の方針に基づいてソフト・ハードの両面での取り組みが進行し

ています。鳥取ごども学園や乳児部も同じ考えでホームを編成しています。一方、全国児童心理治療施設協議会は、小規模化には反対の姿勢で希望館のような小さな生活に抵抗があるようです(全体で議論されていないので理由はわかりません)。それでも、希望館はこの方式が子ども達の育ちを守る環境として一番だと信じています。日々、いろんなことが起こりますが、小さな生活であるからこそ、出来事を成長に向けて解決して行くのだと思っています。

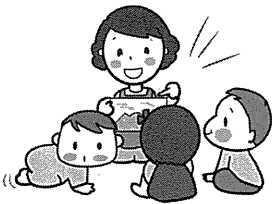
もうひとつは、教育のことです。子ども達は、それぞれの学び方や学び方に応じた教育を選択できます。小中学校本校の普通学級や特別支援学級、希望館内にある分校・分教室。地域の特別支援学校を利用することもできます。家族の方や教育委員会、児童相談所、希望館が意見を話し合っ、時には子ども本人も参加して、学びの場所を選択できるのは、全国的にとっても珍しいことなのです。

他にもブロック体制や職員連携の方法等々たくさんの特徴があります。法人や希望館の職員、子ども達にとって普通だと考えていることが、とても素敵な特徴だということをは是非とも知っていただきたいのです。

希望館は平成27年度の改築を終えて、2年が経ちました。たくさんの特徴を誇りに思いますが、長い歴史があります。

法人は決して今の希望館を目標として取り組んできたのではなく、子ども達の育ち(最善の利益)を求めて、「ここがへんだ」、「こうなればいいなあ」、「あんなことをしてみたい」という一歩ずつの取り組みが今を築いてきたのです。今の希望館が一番と思っても、まだまだ改善が必要なこと、子ども達の利益を守る方法で出来ていないことがたくさんあります。一歩ずつの取り組みを止めることはありません。

時代が変わったり、価値観が変化したり、なにより子ども達が成長するのに希望館が成長を止めることはできません。ここにたどり着くまでの地域の皆さんや関係機関の応援、とりわけ法人職員の努力には感謝と敬服をいたします。希望館は常にチャレンジを続けます。引き続きの応援、そして御理解と御協力をお願いして年度当初のごあいさつとします。更に、秘められた歴代館長の特徴は次の機会に振り返ります。



職員自己紹介

◆分校・分教室



セラピスト
石田 泰代

本年度より鳥取ごども学園希望館通所分校分教室でセラピストとしてお世話になります石田泰代です。子どもたちの近くで関わる大人の一人として、一人ひとりを大切に寄り添っていけるよう心を尽くしてまいります。

◆のぎくホーム



児童指導員
米田 静矢

初めまして、のぎくホームで児童指導員をすることになりました米田静矢と言います。勉強は得意なので学習面で力になればらと思います。それから、一日でも早く子ども達に信頼してもらえよう頑張りたいです。

◆わかばホーム



保育士
吉田 里菜

はじめまして。今年度より、わかばホームで働かせていただくことになりました。

した。慌ただしい毎日ではありますが、目の前の子どもと過ごす一瞬一瞬を大切にしていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

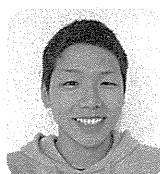
◆さつきホーム



保育士
上田 かおり

希望館さつきホームに配属になった上田かおりと申します。一人ひとりの子ども心に寄り添い、受け止められた実感を味わえるか関わりを大切にしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

◆男子ブロックフリー



保育士
岩田 昌也

今年度から鳥取ごども学園希望館の男子ブロックでお世話になっています。私は小学2年生から野球をしています。野球を通して学んだことを活かし、頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

保育所
鳥取みどり園

笑顔いっぱいになあれ

園長 中村 秀子

今年も園前には沢山の桜の花が咲きほころび、道行く人は柔らかな日差しを浴びながら春が来たよるこびを体いっばいに感じとっていました。そんな中22名の新入児を迎え、園児152名 職員35名で新年度がスタートしました。初めて出会う保育士や保育園という大きな集団生活の場に当初は戸惑いや不安な思いで泣いていた子どもたちも担当の保育士や友達と日々一緒に過ごす中で涙声はいつしか笑い声が変わっていきました。今日も空を見上げながら「いつてきまーす」と手をつなぎ、散歩に出かける姿が見られます。

今年度も当園は法人の理念である「愛」のキリスト教精神に基づき、子どもたち一人ひとりを受け止め、寄り添いながら健康でいきいきと活動する子どもをめざして保育していきます。初めての集団生活において最初に出会う保育者の役割はとても大きいものです。子ども達一人ひとりの要求や発達に合わせて丁寧にかかわり、子ども達が笑顔で安心して

過ごせる保育士や保育園となるよう努めていきたいと思えます。また、緑豊かなこの地で多くの生き物に触れ、季節の移り変わりを肌で感じながら友達と「いっしょに「やってみよう」と意欲を持って取り組むことで遊びのおもしろさや人とかかわる楽しさ、思いやる心を育てていきたいと思えます。そして、保育士も子どもと同じ目線に立ち、驚きや発見喜びを共有していければと思えます。子ども達の輝く目と笑顔がはじける保育園となるよう職員一同、力を合わせて頑張っていきたいと思えます。

職員自己紹介



保育士
奥谷 巴

明るく笑顔で精いっぱい頑張ります！
よろしくお願ひします。



保育士
片山 晴太

保育士1年目。日々色々な事を勉強しながら頑張っていきます！よろしくお願ひします。



保育士
中島 鈴代

子ども達のパワーに負けないよう、頑張っていきたいと思えます。よろしくお願ひします。



保育士
中島 みゆき

子ども達の成長の一助になるよう日々、頑張ります。よろしくお願ひします。



保育士
児嶋 千恵美

元気な子ども達のパワーをいっばい浴びて、嬉しく幸せな毎日です。よろしくお願ひします。



子育て支援員
森田 千恵

毎日可愛い子ども達と一緒に、笑顔で過ごしていきたいと思えます。よろしくお願ひします。



調理員
福原 理子

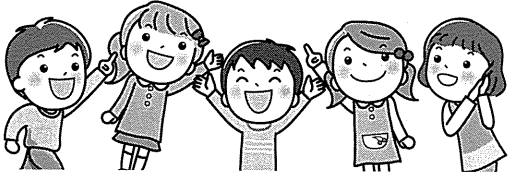
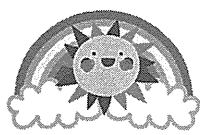
子ども達が、安心して楽しく食事を摂ってもらえるように、頑張りたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ致します。

◆子育て支援センター



保育士
牛尾 美月

わくわく子育て支援センターで笑顔溢れる温かな居場所づくりに励みたいです。よろしくおねがいします。



診療所

「ゴリラの発達クリニック」

『ミスターごども』で

ありたいものです

「ゴリラクリニック開設、7年を経て思うこと」

院長 川口 孝一

近頃患者さんから「80歳は過ぎてい
ると思った」「先生、定年は何歳？」「
」先生が居なくなったら…」「私が死
んで欲しくないと思っている人が亡くな
れる」「等『歳』にまつわる事を言われ
ることが良くあります。」そんな急に
老けて見えるのだろうか？」「疲れて見
えるのだろうか？」と、頭髮同様寂しく
なります。前回の『学園だより』で「赤
ちゃんや子どもは、ジャンプアップの時
期をもって階段状に成長する」と言うお
話をしましたが、老いもまた階段状に進
むのかも知れません。他の人を見てい
ても、少し会わなかっただけに、急に
老けられたな一と感ずることがありま
す。以前鳥取みどり園の十周年記念誌
を頂いて、子どもたちと担任の保育士さ
んとの集合写真を見せてもらって同じ様
な事を思ったことがあります。市立保育
園と違って、鳥取みどり園の保育士さん
は移動が無いので、保育士さんの経年的

変化を集合写真上で年度を追って見てい
くことが出来ます。そうすると、ある年
から「こ」で『おばさん』に入ったなっ
て分かる年があるのです(失礼！)。私
はいつまでも若いと思っていました。私
確かに近年関節が軋むのが分かります
し、故障からの回復に時間が掛かる様
になり、残念ながら『古い』を感じざる
を得ない歳に成って来ました。

実は自分の特技の一つに、「人と面談
している時は目の前のその人と精神的に
は同じ世代に成れる」事があります。小
学生と面談する時は小学生に、中学生と
面談する時は中学生に、気分は成れるの
です。でも、近頃の患者さんの発言から
すると、その力が衰えて来ていると言っ
ことになります。これは忌々しき事態で
す。私の特技と申しましたが、皆さんも
その技は持つておられるのです。同窓会
は、懐かしい友に会いに行くだけではな
く、昔の友に会うと当時の自分がよみが
えり、その当時の自分にも会いに行っ
ているのです。だからより懐かしさを感じ
るのです。

実はゴリラにもこの技がある様です
(人間とゴリラは遺伝子の98%が同じら
しいので驚く事でもないのかもしませ
んが)。「この事に関して、ゴリラ研究の
第一人者である京都大学の現総長の山極
壽一教授(京大を擬人化したような先
生)の感動的な講演を紹介させてもらい

ます。山極先生は長年アフリカでゴリラ
の研究をされており、一緒に大きな葉っ
ばで雨宿りをするくらい仲良くなったゴ
リラの子どもが居ました。しかし内戦が
起こり何年間かアフリカに行けない期間
がありました。その内戦が治まって再び
アフリカに行くことになり、「そのゴリ
ラの子ども(もう大人に成っているだろ
うけど)は元気にしているだろうか？」「
」自分のことを覚えていてくれるだ
ろうか？」と、不安と期待を持ってそこ
を訪れたら、仲の良かったその当時子ど
もゴリラだと思われる大人ゴリラが居た
のです(以下、動画を見せて頂きました
)。まだ地震があり近くには行くこと
が出来なかったのですが、そのゴリラも
山極先生と認識出来た様で、しばらく2
人(?)は見つめ合っていました。そし
たら急にそのゴリラがお腹を出して仰向
けに横たわったのです。その様な格好
は、大人のゴリラはしません。子ども
のゴリラしかしないのです。さらに驚いた
事に、大人ゴリラの顔が子どもゴリラの
顔に変わったのです(その動画は感動キ
ンでした)。そしてしばらくして、大人
ゴリラの顔に戻って森へと帰っていきま
した。

速いもので、クリニックが開設されて
7年が経ちます。私は今一つの大きな節
目に来ているようです。このまま『子ど
もの心』を失って失速して行くのか、あ

るいは再び自分の中の『子ども心』を
呼び起こし、子どもたちと遊んで行ける
のか。後者『子ども心』を持ったおっ
さん、じいさん、そう『ミスター・チル
ドレン』でありたいのです。皆さん、応
援よろしくお願い致します。

児童家庭支援センター
「子ども発達支援センター」

*最近、知り合いの小学生、幼稚園の子
どもたちに会う機会がありました。そ
の子たちは、自分たちに買ってもらっ
たお菓子なのに、ぱーっと広げて「ど
れ食べるー？」と聞いてくれました。
好きなものを食べたらいよいよ声をか
けるのですが「どれがいいー？」と何
度もこちらの気持ちを聞いてくれ、そ
の思いがとても嬉しく思いました。そ
の出来事で、相手の心の中に自分が存
在しているということが、こっぴつこ
となのかと実感しました。

支援センターに来られるお子さん
は、苦しみ、寂しさを抱えています。
自分の世界の中にこもっているお子さ
んもいて、心の中に相手が存在しにく
い場合もあり、そのことで対人関係の
しんどさを抱えていたりします。その
ことから、お子さんの世界も大事にし
ながら、その世界にお邪魔させてもら

い、一緒に過ごすことが楽しいと感じて世界が広がればいいなと思っています。しかし、その世界にお邪魔させてもらう、寄り添いは難しいことだと感じています。

単純かもしれませんが、心の中に相手が存在し、人と人とのつながりが素敵なことだと感じる事ができれば、人とのつながりが薄くなつて殺伐とした社会が少しでも和らぐのではないかなと思っています。
(滝河 真理)

*「北風と太陽」という物語を「存じて」でしょうか？ある旅人のマントを「北風」と「太陽」どちらが脱がすことが出来るかというお話です。北風は「ビュー」と強い風を吹きかけその勢いでマントを飛ばそうとしますが、吹けば吹くほど旅人はマントを飛ばされないのでますますと身にまとってしまいます。しかし、太陽がポカポカと旅人を日の光で暖めると暑さで旅人は自分からマントを脱いでしまったのです。

私はこの物語を人と関わる上で大切にしたいエッセンスが隠れていると思っています。あーしなさい、こーしなさいという一方的なアドバイス(北風)ではなく、自分から行動できるための暖かい見守り(太陽)が重要だと思います。ただ、心にゆとりがないと「見守り」ということはとても難しい取り組みです。そのゆとりを無くして

いる悩みやしんどさを整理する作業を一緒にさせてやってください。

(岸田 有加)

★家族・子育てについての悩みや、子どもに関するあらゆることの相談に応じます。相談料は無料です。

●電話相談

月曜日～金曜日 朝9時～夜12時
(緊急の場合は、休日、祭日、時間外も24時間対応します)

●来所相談

開所時間 月曜日～金曜日 朝9時～夕方6時
*専門の相談員が対応します。

職員自己紹介



相談員 松本 史哉

4月より、新しく子ども家庭支援センターに着任しました松本史哉です。大学時より児童家庭支援センターで働きたいと考えていました。そのため、実際に働けることに喜びもありますが、不安もあります。

未熟な点もありますが、自分が出来ることを一つ一つしっかりと取り組んでいきます。これからよろしくお願ひします。

里親支援とつとり

里親委託等推進員

吉田 信彦

里親支援とつとりがスタートして、7年目を迎えました。昨年度は、大きな出来事がいくつもありました。

5月に、福祉行政の要職を勤められ、里親として活動し、鳥取県里親会全体を牽引してこられた岩本侑子里母がお亡くなりになりました。岩本里母には、里親支援とつとりの設立時から、大変に協力をしていただき、叱咤激励をいただき、育てていただきました。大きな声で鋭く指摘くださりながらも、大変に思いやりがあり、慎み深い方でいらっしゃいましたが、お人柄どおり、ひっそりと逝かれてしまいました。きちんとお礼を伝えられなかったことが心残りではあります。が、里母のハートと教えは、鳥取県里親会と当所がしっかりと引き継いでいきます。

お別れから間もなく、米子市で行いました第63回中国地区里親大会は、いわば「甲い合戦」の思いがありました。企画を練り上げ趣向を凝らした大会の運営と内容は、他県の皆さんから絶賛をいただきました。里親会員の尽力はもうろくに行政・児童福祉施設職員の皆さんのお力

添えがあつてこそこの大成功でした。

10月には、鳥取県中部を震源とした大きな地震がありました。里親の皆さんの被災状況を1件ずつ確認したところ、建物の破損などがあつたものの、ケガをされた方はいらっしゃらず、ほっとしました。状況の聞き取りの際、一番印象に残つたのが、新人の里親さんの「震災後、里親関係の方からすぐに連絡や見舞いがあり、里親になると、こうしてたくさんの方に守られるのだな、と感じた」という言葉です。地震など、もう二度と起きて欲しくはないですが、不慮の災いの時こそ普段からの絆が大きな支えとなるのだな、と感じました。

施設職員は、様々な専門職や先輩から、養育のアドバイスをすぐに受けることが出来ますし、他部署のヘルプの手をすぐに借りることが出来ます。また、常に多くの目で子どもを暮らしをみつめ、最善の利益について考えることが出来ます。転じて里親家庭は、地域に点在している一軒家の暮らしですので、こういったことがすぐに叶いません。しかし、それらのかわりとなるのが、先輩里親からのハートや知恵の継承であり、行政・児童福祉施設の助力であり、里親同士の普段からの絆であるのだと思います。昨年度の様々な出来事を通して、このことを強く感じました。保護を必要とする子どもを必ずやる仕

組みが、地域化・小規模化・家庭養護中心に大きく舵をとったこの時代に、悲しいことも良いこともめまへしく訪れ、営みが変化していきます。この激動の時代を、教えを引き継ぎ、つながりを深めながら、里親の皆さんと共に歩ませていただきたいと思います。そして、ご苦労を共にしたいと思っています。その上で、子育ての喜びを分けていただきたという願いは、諸行無常にあっても変わることはありません。

自立援助ホーム 鳥取フレンド

鳥取フレンド・鳥取スマイル

統括寮長 山中 友子

今年度は、男子4名、女子1名の入居者でスタートしました。3名は就労しており、2名は準備中でホームの手伝いをして生活しています。単調な生活の中でも、一人ひとり自分の過去を想い、辛かった時の事をどこかのタイミングで話してあげることもあります。先日、ホームの買い物帰りの車中、同乗していた子が自分の過去の生活の状況を話してくれました。「俺の家は、小学生の頃から殴られたり、正座させられたりばかりで家には居たくなかった。俺、フレンドに来てからはじめはフレンドに入りたくなかったけど、今は入ってきてよかったです。」と話していました。フレンドがその子の居場所になって、良かったと思います。入居中に就労経験を積み、今後の生活基盤を築く力をつけていって欲しいと思っています。

一方で、入居して1年も経たないうちに退去するケースもあります。入居初日に出て行ったケースもあります。また、入居して数ヶ月生活し、順当に貯金を貯めてアパート自立をしたOBもいます。同じ様に数ヶ月間の生活の中で、職員と反発し衝動的な行動を繰り返し、職員と何度も話し合ったけれども折り合いをつけることが出来ずに退去にいたったケースもありました。

最後に、フレンド、スマイルは、両ホームの寮長を中心にスタッフが個性を活かしながら、自分自身と向き合いながら、チームワークで支援に努めていく所存です。関係機関の皆様方、今年度も宜しくお願いいたします。

鳥取フレンドの玄関前の花たちは元気に咲いています



鳥取フレンドの玄関前の花たちは元気に咲いています

自立援助ホームの子どもたちは、「社会的自立」を目指して生活していくことになるのですが、そのスタートラインに、子どもたち自身が自分の意思で立つまでが難しいと感じています。子ども自身が「このままではダメだ。なんとかしなくては！」と思うことが、自立へのはじめの一歩だと思っています。

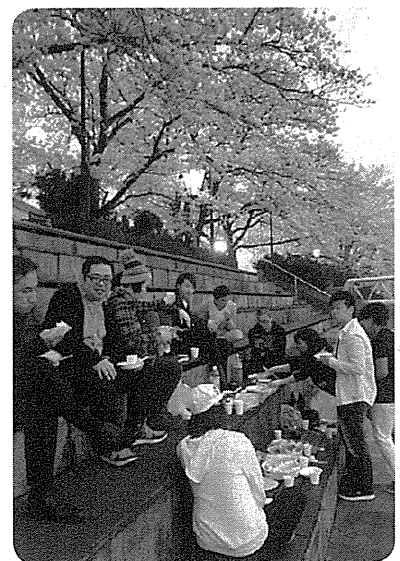
4月より、スマイルに竹中さん、フレンドに赤木さんが職員異動で入れられ新体制でスタートしています。

最後に、フレンド、スマイルは、両ホームの寮長を中心にスタッフが個性を活かしながら、自分自身と向き合いながら、チームワークで支援に努めていく所存です。関係機関の皆様方、今年度も宜しくお願いいたします。

職員自己紹介

児童指導員 赤木 敏行

今年度より、鳥取フレンドで指導員として勤務させていただいています。赤木敏行です。よろしくお願いたします。4月の異動からあつという間に1ヶ月経ちました。日々子どもたちと共に生活し、一緒に振り返りを行う中で、私自身も



フレンドスマイルで花見に行きました!!

自立援助ホーム 鳥取スマイル

寮長 田村 崇

今年度、鳥取スマイルは、男子5名(2名は20歳以上)でスタートしました。それぞれの若者が、現在の課題や目標に向かい一日一日まきに、今を生きています。日々の就労や体験の中で自分

ともっと成長しないと日々反省しています。共同生活の中で子どもたちと正面から向き合い、子どもたちの対話の中から子どもたちの本当のニーズを感じ取り、子どもたちにとって最善の利益となる支援を行っていく。まだまだ力不足な私ですが、チーム「鳥取フレンド」の一員として日々精進してまいります。

の得意なところ苦手なところなどを学び、明日へ活かしてくれたらいいなあと思っています。

今、日々の生活の中で特に感じることは、若者たちがそれぞれの特徴を持ったうえでの人との関係作りやコミュニケーションの取り方に難しさを抱えているという事です。自分自身ではそんなつもりはなくても、相手を傷つける言動を取ってしまうことがあります。その都度我々スタッフが、みんなの話を聴き、その時々状況を把握して、こんなことができたかも、あんなことができたかも、相手はこう思っていたのかも、などなど、そんなやり取りをしながら対話を心がけています。何もかも完璧にできる人はいないことを伝えながら、次の場面や次の人とのやり取りの中で、我々との対話の中身を活かしてくれたらいいなあと思っています。

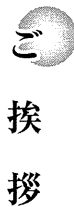
まったく同じ人というのはいなくて、人はそれぞれ違っていい。そして、自分を認め自分を好きになる事と同じように他人に対しても思ってくれたらいいなあということも日々感じながら若者たちと暮らしています。

今年度、国から20歳以上の若者の支援の充実を図るうえで、新たな補助制度の通達がありました。20歳以上に伸びて、支援に余裕が持てるというよりは、この年代の多くの若者が、自立へ向けてまだ

まだ困難に直面しているという現状があるという事だと思っています。我々スタッフも今まで以上に若者たちとの一日一日を大切にしながら、そして、もちろん笑顔忘れずに日々の生活を営んでいきたいと思っています。皆様の心の支えがあることで私たちの毎日があります。本当にありがとございます。今後とも温かく見守って頂きますようよろしくお願いいたします。

地域若者サポートステーション事業
とっとり・よなご若者
サポートステーション

★とっとり若者サポートステーション



総括コーディネーター
山下 修

平成27年に「とっとり若者サポートステーション」において、就労体験先開拓でお世話になり、この度、「とっとり・よなご若者サポートステーション」の総括コーディネーター」という大役を拝命し、再び皆様と働くことになりました山下でございます。

皆様もご存じのとおり、我々、「若者サポートステーション」では様々な阻害要因を持つ、15歳から39歳までの無業状態にある就労意欲がある若者の就労に向けて、「ご家族を含め利用者に寄り添いながら、あらゆる視点からサポートをしている就労支援機関であり、働きたい若者が就労に向けて安心して取り組んでいただける様、12名の職員で取り組んでおりますが課題も多くあり、実績も低迷しているのが実状です。

今年度は、「若者サポートステーション」の事業内容等の周知のための広報活動の徹底、関係性の構築を図り、支援を必要とする若者一人でも多く、進路選択・就労に向けての悩みを抱えた若者に若者サポートステーションのサポートが届く様、各関係機関等との連携の強化、広報並びに利用者のニーズに沿った新たな取り組みの機会を増やすなど、就労に向けた支援プログラムを実践していきたいと考えています。職員一同、切磋琢磨しながら、課題を一つずつ克服しながら、新しいサポステを目指して参りますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。

職員自己紹介



相談支援員兼職場体験・就職支援コーディネーター
岡本 秀人

本年4月より、とっとり若者サポートステーションにて勤務させていただきます。宜しくお願い致します。

出身は北海道の札幌、東京をはじめ全国各地で仕事を参りました。介護事業所での相談員や社会福祉協議会での勤務、前職は石川県の金沢にて地域生活定着支援事業に従事していました。この度、ご縁を頂戴して鳥取に移住致しましたが、業務とともに『鳥取県』について広く学んでいる最中です。海山の幸に富み穏やかな人の暖かさを感じる当県は、私にとりまして魅力的です。どうぞ皆様、宜しくご教示下さいませ。

現代社会を巡る様相は、複雑かつ多義の世界であると思われまます。固定化された価値判断のない社会は「多様な価値を受け入れる懐の深さ」がある反面、「社会的な選択において、その価値判断基準が明確にならなくなってしまう」可能性をばらんでいると思われまます。雑多な情報に埋もれて取捨選択に悩んでいる私自身も、これを書いていて汗顔の思い



ですが、選択のための備えとして「知覚すること(必要な情報を取捨選択すること)」、「そしてそれを自己の中で「体制化(情報をまとめ、整理)」する事が肝要と考えています。私自身、スキルを高めて職務を追究し、しかるべき情報提供と「体制化」が出来るよう努めていきたいと思つ次第です。

★よなご若者サポートステーション

また一つ新たな挑戦に向けて

キャリアコンサルタント

山 田 香 子

よなご若者サポートステーションは、今年度より、とっとり若者サポートステーションの『常設サテライト』として、運営を開始することになりました。よなごサポステ自体は開所して5年目となりますが、毎年新しい流れの中で過しております。

地域若者サポートステーション事業は平成27年度より、雇用対策に力を入れ、さらに職場定着ステップアップ事業が加わり、働きたい思いを持った若者(15〜39歳まで)の就労までの道のりと、就職後のフォローを行っております。

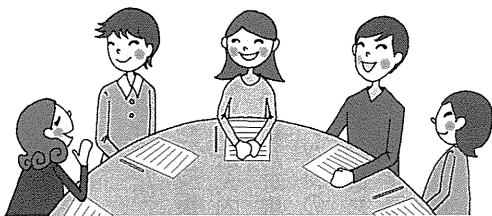
地域に根差した就労相談支援機関として、どのような役割を目指すのか模索する中、昨年度は新たに「しごと体験」と

いうメニューを展開しました。職場体験に興味があり、サポステ内での作業ならチャレンジしてみようという方を対象に、サポステ内で自己理解・仕事理解を体験することで理解するプログラムです。このメニューを体験することで、面談の中ではわからない得手不得手に気付かれる方、「しごと体験」を通して自信をつけ、職場体験にチャレンジしてみようなど、サポステを利用される方の中で、様々な形でのステップアップがありました。

「ステップアップ」というと、階段を一段一段確実に上がっていくイメージがありますが、その歩幅やスピードは人によつて様々です。我々が思い描いているようなステップアップと、利用者の方が思い描いているステップアップを、面談の中ですり合わせ、着実に目標に向けて一緒に進んでいくことが求められますが、時には思うようにいかないこともあります。その中で試行錯誤しながら、作り上げていったのが、「しごと体験」というメニューです。参加される方も、自分自身の得手不得手に気付くだけでなく、自信の構築につながったという感想も聞かれました。また我々スタッフも、仕事内容や、量、伝え方など、具体的に作業内容をわかりやすくするには、どのようにするのがいいのか話し合う機会となりました。お互いにとって、これまで

のコミュニケーションを見直す機会にもなりました。

今年度も昨年度の活動を踏まえ、新しい挑戦をしようと、模索中です。昨年度は「しごと体験」だけでなく、これから就労を目指す若者たちにどのようなサポートができるのか、社会教育の立場から若者支援を考えていきたいという声がかかり、講演会等にも出席してきました。これからもよなごサポステが地域に根差したサポステとして、社会情勢に合わせた新しいニーズに対するサービスの提供と、そして従来通り、一人ひとりの歩幅に合わせた進路決定や生き方のサポートというミッションのもと、日々の業務に携わっていきたいと思います。



鳥取養育研究所

運営委員長 米田 怜美

鳥取養育研究所では、『すべての子どもたちに、人間としての尊厳と子どもらしい生活、多面的で調和のとれた発達を保障するために「鳥取養育研究所」での活動を充実させ、一人ひとりの子どもが大切にされる社会づくりを目指していきたい。』(趣意書より抜粋)、という趣意の元、研究事業・研修事業、普及事業という力テクノロジーに分け、事業を展開しております。その中の研修事業に位置づけている、「子どもと施設の権利擁護全国ワークショップ」の実行委員長を担当し、今年度第6回目を開催することになりました。

このワークショップでは、『子ども達へ大人がしてはならない、ことからするべきこと、へ』をテーマとしています。座学だけでなく、ロールプレイなどのワーク、意見交換を通して、施設職員の皆さんが日々を振り返ったり、子ども達の気持ちを改めて感じてもらったりという時間を意識的に設けています。

実行委員が大切にしていることは、主催者や講師が正しい答を知っていて、それを教える、伝えるということではあり

ません。受講者の皆さんが子ども達との関係をもう一度考え、「もしかするとこのやり方は変だったのかもかもしれない」という気づきと新たな視点や、方法の発見。更に、気持ちを共有する仲間を見つけていただき、権利擁護の取り組みをあきらめずに進め続けていただくことです。

参加者の皆様から私自身学ぶことも多く、たくさん刺激を受け、昨年度は鳥取以外でのワークショップを開催することができました。今後も、初心を忘れることなく、能動的に動き、歩みを止めないでチャレンジしていこうと考えています。

最後になりますが、鳥取養育研究所は他の事業においても、子どもの人権を軸とした内容で、施設のみならず、養育に関係するすべての方々と共に歩んでいこうと考えています。御理解と御協力、鳥取養育研究所への御参加をお願いいたします。

●鳥取養育研究所ホームページ
<http://youken.info/>



はまむら作業所

はまむら作業所として

管理者兼サービス管理責任者

山岡 宏樹

開所し、本年が6年目となり、月日が経つのを早く感じています。一方、学園便り発行のこの時期(巻)になると、文章作成にあたり、身の引き締まる思いと、「はまむらができる支援」について考える機会になり、大変ありがたく思っているところです。



昨年度は、さまざまな事を見直し、また再構築する一年でした。

◆支援体制

2016年より事業展開を開始した、就労継続支援B型と就労移行支援との「多機能型事業」にあたり、法人内支援体制の強化を図りました。新たな専門職員補充、法人の専門職スタッフの協力(栄養と調理の相談・栄養士、はたらく相談・キャリアカウンセラー、健康の相談・看護師、生活・福祉の相談・介護福祉士、社会福祉士、精神福祉士等)、法人の職員によるボランティア「浜猿」の活動理解と協力もあり、はまむら作業所の利用者にとって、多様な支援が展開できました。利用者の「働く」「生活する」を含め、個々の支援課題の発見にもつながり、相談支援事業所等をはじめとする、各種医療・福祉サービス機関への提言、連携等に役立ちました。

2017年は、上記に加え、個々の利用者の生活事情にも配慮しながら、利用者の生活基盤支援強化のケースワークにも力を入れていきます。具体的に、利用者本人・利用者家族の「ニーズ」や「ストレングス」へのケースワーク、(利用者)の生活・住環境の把握とケースワーク、各種障がい福祉サービス機関への連絡や相談強化、制度等の活用など支援強化を図り、その事により、就労活動の



安定参加を目標とします。

生活基盤の安定は、はまむら作業所利用中も、就労定着後も重要な要素です。利用者の衣食住が個々に安定し、就労し続ける為の支援方法を、本来サービスに加え、模索し続ける年とします。

◆作業環境、体制

普段からの地域住民の皆様の変わらぬ愛情たくさんのご支援、それに加え、法人の職員によるボランティア「浜猿」の活動理解と協力により、作業の人数的な問題の解消、作業の効率化、新規作業の

開拓や展開、作業チームづくり基礎の一年となりました。開設当初より、悩んでいた「はまむら作業所のチームで活動する」という事について、ようやく6年目にして、動き出す事ができた一年でした。

節約に節約を重ねてきましたが、機械購入（トラクターと管理機）も法人の理解と協力により行い、作業を敏速かつ効率的にできました。

2017年、はさらに活気あふれる体制を整え、利用者にとつての作業環境の工夫、作業発展を目指し、作業や販売収入増、工賃アップを目指していこうとしています。企業の皆様、今後ともどうぞ、ご支援、ご協力よろしくお願い致します。

◆全体として

支援経過の中で、昨年度より、様々な障がいの方を応援するようになり、スタッフ全員で、専門性をより身に付けていかねばならなくなりました。利用者さんの増に伴い、日々あわただしくなりがちですが、これからも、これまで5年の実績を基に、「個別支援の充実」「利用者主体のサービス」、「地域ニーズに応じた障がい福祉サービス」の展開・充実、「利用者も応援する仲間も、共に育ち合う関係作り」という目標を忘れず、日々活動したいと思えます。

これからも「Beach Village」こと、はまむら作業所は、「働き続ける」「生活し続ける」為に、チーム全体での発展を目指します。これからもご指導よろしくお願ひいたします。

退所児童等アフターケア事業 ひだまり

支援内容の充実を目指して

就労支援員 山根 潤子

ひだまりが大切にしている支援方針は「利用者の主体的な選択」「利用者との長期的な関係の保持」「自立生活への予防的な支援」です。これまでは、問題が起きてからの対症療法的な支援が中心で、自立してからトラブルに巻き込まれる機会を予防する支援が不足気味でした。退所後いろいろな問題が重なることで、しんどさや不安の増大に苛まれ、自らの可能性を信じ、選択・行動する機会を失ってしまう危険性を軽減できる支援が必要です。

そこで、今までOB・OGに対して行ってきた生活面・就労面でのアフターフォローに加え、入所からトラブルを回避する知識や技術を学ぶ機会、自分のこと・職業のことを知り、将来のことを

考えてみる機会を設け、自己決定の必要性の自覚をすることも大切であると考えました。

昨年度は、毎日新聞大阪社会事業団の助成を受け、県内5ヶ所の児童養護施設入所中の児童を対象に「コミュニケーション能力の向上」、「金融教育」、「テーブルマナー」についての研修を開催しました。参加した児童の感想には、「話し上手にはなれなくても、聴き上手にはなれる」という話しを忘れません。学んだことを活かし、自分が出来ることを増やして何でもチャレンジしていきたい、一人暮らしには、こんなにお金がかかるとこ

とが分かった」といった感想があり、社会参加に向けた準備の一端を担えたのではと思っています。

また、高校生への支援として、退所に向けた自活訓練、資格取得などへの支援、履歴書の添削、面接練習なども行っています。その結果、高校生本人の努力が実り、資格取得、就職内定などの報告を受けると、私たち職員一同とても嬉しく、結果に一喜一憂しています。

平成29年度も、引き続きOB・OGに対するアフターフォロー支援と鳥取県全域の退所前児童の支援にも力をいれたい計画を立てています。

自立研修開催に向けては、自立研修検討会を設け、各施設の職員さんにお集まりいただき協力をさせていただくことで、より充実した研修開催に向けて進めていきます。

また、社会の中で自分らしく活躍する方向に気づき、実現できるように成長するための支援として、不安や悩みを抱える利用者に対し、個別に自己理解や職業理解などのキャリア支援の機会を提供することも考えています。その他、職員の皆様、たくさんのお客様の方のご協力を得ながら連携し、退所児童等のアフターケア事業を進めていきます。もし、生活や仕事で困ったとき、トラブルが起きたときは、相談場所の一つとしてひだまりを活用していただけたら幸いです。



決算書について

社会福祉法人制度改革における社会福祉法人定款変更により、例年5月に行っていた決算理事会・評議員会を今年度より6月に開催することとしたため、今回より学園だよりには掲載しません。
6月の理事会開催以降、ホームページ・事務所にて閲覧できる状態にします。

平成28年度 鳥取子ども学園後援会収支決算書

自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日

(収 入)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	比較増減(△)額	摘 要
後 援 会 費	1,334,000	304,000	1,030,000	43件 (前年度39件)
貸 付 金 返 済	0	0	0	
雑 収 入	65	539	△ 474	預金利息
前 期 繰 越 金	1,429,593	1,328,487	101,106	27年度より
合 計	2,763,658	1,633,026	1,130,632	

(支 出)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	比較増減(△)額	摘 要
本部会計へ寄付	0	0	0	
手 数 料	57,133	178,833	△ 121,700	郵便、クレジット(ネット募金)、残高証明
児 童 支 援	30,000	24,600	5,400	遠征旅費
貸 付 金	0	0	0	
雑 費	223,000	0	223,000	110周年同窓会
合 計	310,133	203,433	106,700	

収入支出差引残金 ￥2,453,525－は次年度へ繰越

会費・寄付金は下記へお願いします

鳥取子ども学園後援会事務局：〒680-0061 鳥取市立川町5-417 鳥取子ども学園内
☎(0857)22-4206・21-9551 FAX 23-0242

振込口座名義：社会福祉法人鳥取子ども学園 理事長 尾崎淑子

振込口座：郵便振替 01490-9-9106 山陰合同銀行鳥取営業部 普通 3422812
鳥取銀行本店営業部 普通 7645611

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発刊しています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考えてのことですので、ご理解いただきますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。